

2020年度 社会連携研究プロジェクト活動報告書

2021年 5月 6日

和光大学地域連携研究センター
センター長 小林 猛久 殿

代表者氏名 小林猛久

研究プロジェクトの名称 「地域デザイン」を基盤とした、次世代のための異質力育成プログラムの開発						
研究目的 和光大学における現代人間学部・表現学部・経済経営学部の全3学部の学びのコアであるとともに本学の強みとなる「異質力で輝く」人材育成の実践的研究をベースとして、地域の多様な人々と連携活動を希望する全学生やあらゆる授業・課外活動のモデルとなる実例を実践するとともに、本学の学生や教職員との連携により地域活性化を実現したいという企業や市民活動団体、各種行政機関との連携プロジェクト創出と運営やその評価を行うシステムを構築して、組織的かつ継続的に地域活性化を働きかける。						
プロジェクト所属メンバー（氏名の右の欄に、本学専任教員＝教、共同研究員＝共と記入してください。）						
倉方雅行	教	山田 貢	共			
堂前雅史	教					
小関和弘	教					
岩本陽児	教					

研究活動の経過（800字以内）（打ち合わせ、報告、招待講演、調査旅行などの月日、テーマ、報告者、目的地などを記入してください。） 2020年11月1日（日）岡上てらこや事業と連携した、親子いもほり体験会を実施 担当 小林、山田、学生8名。 学生が育成してきたサツマイモの収穫体験。学生たちが、植え付けから収穫までの工程を説明し、参加した子ども達の収穫をサポートした。体験参加した子ども岡上小学校の児童7名（小学生以下）、付き添いの保護者など14名。 2020年12月19日（土）上記と同様に、親子いもほり体験会を実施 担当 小林、山田、学生5名。 体験参加した子ども岡上小学校の児童6名（小学生以下）、付き添いの保護者など9名。 2020年11月6日（金）三輪子どもクラブと連携した、親子いもほり体験会を実施 担当 小林、山田、学生20名。 学生が育成してきたサツマイモの収穫体験。学生たちが、植え付けから収穫までの工程を説明し、参加した子ども達の収穫をサポートした。体験参加した子ども三輪子どもクラブの所属する未就学児童15名（小学生以下）、付き添いの保護者など17名。なお、参加希望者が多く定員を超えたため、同内容で11月13日（金）でも開催し、未就学児童8名、付き添いの保護者など10名。が参加した。担当 小林、山田、学生8名。 2020年12月23日（土）万福寺人参品評会参加（主催：里山フォーラムin麻生／麻生区生涯学習支援課） 参加学生3名、参加メンバー 小林、山田 毎月、第1金曜日の18：30から20:00 岩本、堂前、倉方、山田、小林、他 岡上地域の方々 和光大学と岡上地域の発展や教育などの連携に関する相談会を開催。 研究担当者以外にも、適宜岡上地域の住民の方と情報交換を行った
--

研究成果の概要（1200字程度）（どのような方法で調査、研究を行ない、どのような新知見が得られたか。またそれを今後どのように活かすことができるか、など）

地域デザイン以外の科目、例えば「タウンマネジメント」（共通教養科目）では、町田市の公園緑地課より依頼された、香山園のリニューアルプラン構築の作成を前期中に実施し、最終的な成果を7月30日（木）に学生13人が参加して、町田市役所内で公園緑地課に関連する職員の皆さんに対して発表した。

コロナ禍により、授業は100% Zoomによる遠隔授業となったが、公園緑地課のご担当者様にも、リニューアルプラン作成依頼、中間報告2回の合計3回のご参加を頂くことができたことは、居ながらにして打ち合わせができる遠隔ビデオ会議システムの利点であった。学生たちは、実施調査はできないながらも、インターネット等を活用して、日本を始めとして世界中の都市型公園を参考にするとともに、鶴川を中心として市民の状況や講演を利用するニーズなどの状況も調査した。その結果、町田市より、ユーザ目線による地域住民の方が使ってみてみたいと思ってくれるような多様なアイデアが盛り込まれていて、大変参考になったと、好評価を頂くことができた。このような、実践的な実体験型学習を実現することにより、学生の学習意欲の向上や地域経済の活性化の有効性を大きく示すことができた。これは、これまでの共通教養科目「地域デザイン」の授業活動を基盤とした地域の農業生産法人との連携による社会と教育現場が融合した人材育成システムの構築や地域活性化へ貢献するシステムを発展させることによる成果と言える。

また、後期のタウンマネジメントでは、岡上分館主催の市民エンパワーメント研修「岡上をつなぐリーフレット作り」の素材として利用するための岡上周辺の自然や地理や歴史などを調査し、それらを報告するという社会活動へのサポートを行った。学生たちは、1度全体で岡上全体のフィールドワークを堂前委員の指導の下に実施し、その後は岡上を5つのエリアに分けて、2から3名の小グループで3回程度個別に実地調査を行い、散策マップに掲載するスポットの候補や、散策ルートの作成を行い、その成果を11月29日（日）に市民エンパワーメント研修において、発表した。その後、学生達が発表した内容を素材として、研修に参加した地元の方々が、「岡上をつなぐリーフレット」を2月に完成させた。

こうした地域連携・人材育成プロジェクトを定着させ、全学的なシステムへと拡大し、それを恒常化させることにより、和光大学の異質力育成プログラムとして完成をさせたいと考えている。

成果の発表文献（標題、著者名、雑誌名、巻号頁、発行年等）

（発行年は厳密に2020年4月～2021年3月に刊行されたものだけに限らず若干前後のものも含めてください）

※ 用紙が足りない場合は別紙を添付してください。

※ できるだけこのデータに入力いただき、Eメールでご提出ください。

※ 提出期限：2021年4月30日（金） 提出先=企画室企画係（岡本） kikaku@wako.ac.jp（企画係）